



あゆみ

No. 148

令和元年 6月14日

編集 発行：苔山寮・第二苔山寮

天草市本町下河内 680

TEL 0969-22-5339・0969-22-1766

FAX 0969-22-5090



快晴の中開かれた花しようぶ祭りでのスナップ。
利用者の小山兼徳さんが綺麗に撮影されました。

『働くこと、生きること』

施設長 鮑田 一夫

天草ではそろそろ晩稲の田植えも終わりに近づき、夜になると蛙の合唱がまみびすしい頃になりました。日ごと

に稲は青さを増し朝早くから田に出ている人の姿が見えます。農業には定年も勤務時間ありません。手塩にかけて育てれば育てるほど作物の実りは豊かになります。厳しい仕事ですが自分の労働の成果が文字通り見える仕事です。振り返って政府が今推進している

「働き方改革」が対象としている仕事はおもにサラリーマンのような仕事です。日本では現在第三次産業に従事する人が最も多いことを考えると当然かもしれません。しかし、農業従事者や自営の職人のように「働き方改革」の外側で働いている人がいること、また、働き方の制度を変えるだけでは問題は解決しないことも事実です。私は「働き方改革」に反対しているわけではありません。当施設でも職員に少しでも働きやすい環境を整えるために、衛生委員会が年二回のストレスチェックを行い産業医の面接も希望により行っています。昨年度は職場改善アンケートを取り、見えてきた課題をさらに掘り下げて改善に繋げようとしています。

また、今年度より入職したその日から四日間の年休が取得出来るよう就業規則を改正しました。職員からの要望で、雑務を行ってもらおうサポートスタッフも六月から雇用しました。

このような改善が少しでも職員の働く意欲と満足に繋がることを望んでいます。先に述べたようにそれだけではことは解決しないのです。先日散歩の時畑に出ているお年寄りから声を掛けられました。その方は腰が大きく曲がっていて押し車がないと歩けないほどの方なのですが、それは見事な野菜を作られます。その方にとつて野菜を作ることとははや単なる労働ではないのでしょうか。ラジオで誰かが言っていた「生きるように働く、働くように生きる」という言葉がそのお年寄りの姿と重なりました。私達は自分の業務を遂行することを仕事としますが、業務は器であり中を満たすのが仕事です。中が溢れそうになれば新しい器を見つけ、また満たしていく。その繰り返しがいづか自分の働き方になっていき、生き方にも繋がっていくのではないのでしょうか。



サービスの現場より

私たちは毎年、それぞれ一人の利用者の方を事例研究としてとりあげ一年を通して、課題解決に向けてチームで取り組んでいます。

「Mさんの事例研究をして」



支援員 小堀田 真子

昨年一年間Mさんの事例研究に携わらせてもらいました。Mさんは視覚・聴覚が不自由であり、課題としては施設の壁を叩く。特に職員朝礼中が多いと感じられていました。他にも廊下や居室で叫ぶこと、薬を舌の裏に隠したり、入れ歯をバックに隠していたということがありました。まずはどうしたらいいのかを四月に話し合った結果、朝礼時に洗面台拭きを行ってみてはどうか・チリ紙折りをしてみてもどうか・編み物をしてはどうか・ヘッドホンで音楽を聴いてはどうか（本人より片耳少し聞こえるとの情報があり）・ビーズ通しを行ってみてはどうかと話が出ました。その後も一ヶ月に一度話し合い新しい案を考え、いろいろ行ってみました。タオルたたみやちり紙折り、洗面台拭きについては自分の役割だと思っただけか、拒否もなく毎日行う事が出来ました。一人で行う事は出来るがMさんが必要としていることは「他者との関わり」ではないかと思ひ、友達という存在を作りました。他者と居室にてタンバリン叩きを行ってもらいました。何日か行っていると自ら居室に行くようになり「友達」と手話にて伝えてくれました。また、十月からは他職員や利用者の方ともっと関わる時間を多く作れるように、月に一回外出を計画するようにしました。計画後に都度伝える事により、楽しみにされてきました。毎回帰寮後は「楽しかった。次はいつ」と手話にて尋ねてくることが多く、利用者の方の名前も少しずつではありますが見えられてきました。

一年を通し叫ぶこと壁叩きは減少してきましたが、まだまだ課題は沢山あります。Mさんが一番必要としていることは、他者との関わりだと思ひました。Mさんがこれから施設生活をもっと楽しめるように、寄り添う時間を多くしていきたいと思ひます。また、手話を皆さんに広め、他者とのコミュニケーション方法を増やしていけたら良いと思ひます。事例研究を一年間行い、もっと沢山の方のニーズを探し研究する事で、皆さんが楽しい施設生活を送る事が出来ると思ひました。

「事例研究を通して」



支援員 鶴田 浩隆

昨年度、事例研究を主となり取り組ませていただきました。私が担当させていただいているFさんの生活の向上を目的として一年間事例の研究を行いました。

Fさんは自閉傾向が見られる方で、あまり他者と関わろうとはされません。心を許している人に対しては、自分の好きな事を話しかけることもあるのですが、殆どの方に対し話しかけることはほぼ見られません。また、前年度より、買い物で利用する店舗がセルフレジを導入したことに伴い、Fさん一人で買い物を行うことが難しい状況になっていました。そこで、Fさんの課題として「気軽に話すことが出来る人が少ない」「買い物を行う際に、セルフレジを自分一人で通ることが出来ない」の二点を挙げました。課題を解決するため、他者へ心を開いてもらえる様オープンカフェなどで積極的に他者と関わってもらったり、Fさんと共に買い物を行いセルフレジと一緒に利用し説明するなどの支援を行いました。

結果としては、Fさんはある一名の利用者の方へ心を開いて下さり、廊下などでその方へ話しかける様子が見られました。しかし、セルフレジについては、タッチパネルに軽く触れるだけで反応することに對する理解があまり出来ない様子で、一人で清算を終えることは難しい様子でした。しかし、上記した研究結果発表時に「それは本当にFさんが望んだ課題なのか」という指摘をいただきました。『Fさんは自閉傾向であるため、自分一人であることを好まれ、また、買い物は支援者と一緒に行えば問題ないのではないか』ということでした。本来であればFさんが望んでいることを課題として挙げるべきなのですが、今回の事例研究ではそれが成されておらず、コミュニケーション不足、自身の力不足を痛感することとなる苦い経験となりました。今年度もFさんの担当をさせていただいておりますが、昨年度の反省を活かし、今後は言葉だけでなく視覚からの情報など様々な手法でFさんとコミュニケーションを取り、また、一刻も早く自身が成長できるように上司の皆様、諸先輩方へご教授いただきながら、仕事に邁進いたします。



交流委員会について

委員長

鮑田 祐介

交流委員会は季節、地域行事への参加を通して利用者者に四季折々の生活を感じてもらおうと共に、地域住民の一員である事を自覚してもらい、より深い交流と連携を築いていく事を目的として活動しております。今年度の重点目標に「チャレンジを諦めない」を設定し職員十二名、利用者二名で取り組んでいます。この目標を達成するために一番力を入れている事が、メンバーの参画意識を高める事です。各行事に責任者を決め、計画案は前年度の反省を見直した上で提出、検討課題を会議の前迄に提示し、自分の意見や考えを持って会議に参加する事です。又、会議では、人の意見を聞く、受け入れる、発想を膨らます、どんな意見も否定しない事です。この考え方をうけてからは、一つの意見から色々な発想が生まれており、新しいチャレンジに繋がっています。現在、施設では重度高齢化が進み、以前出来ていた事や楽しんでいた事が出来なくなりつつあります。その中で新しい体験や経験を通じた楽しさを提供するために私達が行事を計画する際意識している事が、出来ない事をどう工夫したら実施出来るかを考える事です。例えば、刻み食を召し上がったおられる利用者の外食は、事前に外食先に現在の食事形態を説明して刻み食の提供をお願いし対応しています。又、利用者の食形態に応じてトロミ剤を使用し安全な食事を提供しています。車椅子ご利用の方の外出時は外出先の施設確認は必ず行っております。

現在の日本はノーマライゼーションの考え方が大きく前進していますが、まだまだ設備一つにしても障がいを持っておられる方の生活には不十分な部分が多いのが現状です。交流委員会ではそういった部分を知恵と工夫で乗り越え、障がいがあっても普段の暮らしが幸せになるよう努めています。今後も利用者個々のニーズや利用者がまだ経験していない楽しめる事が発見出来るよう施設全体で協力し合い、充実した施設生活に繋がるよう取り組んでいきます。



感染症発症時訓練について

主任看護師

和田 富美

毎年、年二回(食中毒・インフルエンザ)、感染症発症時訓練を行っています。流行期前に想定を変えて実施する事で、各セッションの役割を確認すると共に、迅速な初動で感染拡大防止に繋がるよう実施しています。今回は、食中毒発症により食堂と厨房が閉鎖したことを設定しました。給食が中止になると毎日のルーティンが一変します。食事の時間や場所は、水分補給やお茶ゼリー作りは、複数の食形態の維持は、食事支援は等々課題がたくさんありました。食事以外の支援や、環境整備、介護、通院等についても並行して変更しなければなりませんので、危機管理委員会(訓練時開催)で方針を決定し共通認識を図るため、各セッションの窓口を一本化する等併せて検討することができました。一旦感染症が蔓延すると、QOLの低下や精神状態への影響が出てきます。また職員の仕事量と心理面の負担が増大し、ヒューマンエラーの要因にもなり、更に施設評価の低下に繋がりますので、全職員で施設内には持ち込まないよう予防に努めなければなりません。予防は「一ケア一手洗い」の完全実施と、「施設へ持ち込まない」「家庭へ持ち帰らない」為に出退勤時の更衣の徹底に努めています。

今冬はインフルエンザが施設で発症することはありませんでした。外部との接触が多いのはどうしても職員となりますので、更に意識を高めるよう啓発にも努めていきたいと思えます。

平成から令和へを共に祝って

〳即位の日奉祝弁当〵

管理栄養士

長嶋さおり



今年のゴールデンウィークは十日連休。その間に利用者の皆様に何か楽しみを提供できないかという思いから、五月一日即位の日に御祝い御膳を作りました。

当日は、施設長より即位の日についてのわかりやすいお話があり、昼食時にはクラシック音楽を流し、ゆったりとした雰囲気の中食事をして頂きました。いつもよりも一回り大きい弁当箱に盛った普段は出さないような高級な食材も使った色とりどりの料理に「うわあ〜!!」と歓声があがり、ほとんどの方が残さず召し上がってくださいました。



愛藍ピック

五月十二日

今年松島のアロマで、第九回の愛藍ピックが開催されました。競技は五種目行われ、綱引き、御家族の方も参加される「パンツDEデート」は特に盛り上がり、笑い声や大きな声援が飛び交っていました。利用者の皆さん練習の成果が出たようで、とても満足した表情をされていたのが印象に残っています。御家族の方、他施設の方とも交流ができた良い一日となりました。



パンツ！と割ったら…
パンツでDASH！



綱引きは勝って楽しい！
負けて悔しい！



最後はみんな
笑顔でV!!

第十五回花しょうぶ祭り

六月一日〜九日



かかしオリンピック選手団と一緒に

西の久保公園にて第十五回花しょうぶ祭りが開催され、今年も苓山寮・第二苓山寮で出店、参加させていただきました。出展物は飲み物・乾燥椎茸・手芸品です。利用者にも全日参加していただき、お客さんが来ると元氣良く挨拶をしたり、また物が売れると「ありがとうございます」と感謝の意を伝えられました。非日常的な体験を通して、良い経験となりました。



潮干狩り

五月四日

ゴールデンウィーク真っ只中、第二苓山寮の皆さんでマテ貝堀りに行きました。利用者の方々たつてのご希望での実施という事もあり、皆さんとても楽しまれておられました。穴に塩を入れ、ピュッと飛び出た貝を取り出すのですが、これが中々難しいもので皆悪戦苦闘されておりましたが、時間が立つと共に徐々に慣れられ「採ったよー」「見てみてー」と喜び溢れた声が聞かれだし、時間を忘れるほど熱中されていました。



地味でも大事な作業です



思いも一潮！



合同災害対策本部設置訓練について

五月十五日、啓明会全体で行われた総合防災訓練の後、
芥山寮・第二芥山寮で今回が初めてとなる合同対策本部設
置訓練を実施しました。"地震による裏山の崖崩れが発生、
給食棟にも被害が出ておりライフラインが寸断された"と
いう設定です。

管内放送で役職以上を招集し、施設長に合同対策本部を
設置してよいか確認後、連絡・調整、復旧・作業、利用者
活動、支援物資調達（随時）の四班に分け実働開始までを
訓練しました。訓練を行った事でマニュアルを見直し、有
事の際に必要な物資、現在不足しているものの再確認など
ができ、活発な意見も出ました。職員の意識の向上に繋が
ったと思います。



訓練後は新職員による緊急連絡、
消火訓練が行われました



東向寺保育園交流会

五月三十一日に第二草学園活動ホールにて、東向寺保育園交流会が催されました。今回で三一
回目を数える交流会ですが、毎回趣向を凝らした歌やダンスを見て楽しむことができるとあって、
皆さんにも人気のイベントです。

最初は緊張気味の保育園児さん達でしたが、利用者の皆さんの自然体による緊張もほぐれたよ
うで、次第に笑顔も見られるようになり、練習の成果を遺憾無く発揮されていました。皆さんの
温かい拍手に勇気付けられているようにも感じました。

閉会で「来年も楽しみにしています」と挨拶をしてくれた利用者の言葉が会の楽しさを物語っ
ていたようでした。

お手紙ありがとうございました！
来年も楽しく過ごしましょう！
(^_^)



【新利用者紹介】

大園 佑大さん

天草学園から入所しました。よく笑いよく遊びながら活動しています。キャッチボールとまんが日本昔話が大好きです。

【新職員紹介】

釜元 ユミさん

五月から苓山寮で支援員として働いてます。気持ち新たに何でも取り組んで行きたいと思っています。

原田 愛海さん

五月から苓山寮支援員として働いています。皆さんと仲良くできたらいいなと思います。

【退職職員】

田口 美子さん

四月末をもって退職されました。今後のご活躍を期待しております。幸せな家庭を築いてください。

ボランティアの窓 副施設長 鮎田 逸子

本町の鈴木神社では、毎月一日地域の方々が神社とその周辺を清掃されています。苓山寮、第二苓山寮でも四月からお手伝いさせていただくことにしました。神社の敷地は広く落ち葉掃き、草取りとすることは沢山あります。私達は四月、六月に神社の境内の草取りを利用者数名と職員でさせていただきました。大きな戦力ではありませんが、利用者の皆さんにとって地域の方々と交流する貴重な機会でもありますので、長く続けていきたいと思えます。

シリーズ1

日常生活の風景

轟 敬治さん



シカフェの時に展示したり、絵画展に出展されています。先月もパラリンアート世界大会に応募されました。これからも敬治さんのたくさんの作品を楽しみにしています。

祝原 和則さん



シャイでオシャレな和則さんです。お出掛けがとでも大好きで外出前には自分の好きな洋服を選び着替えて出掛けます。六月十一日には七十歳のお誕生日を迎えられました。最近ではお気に入りの帽子とサングラスを身につけ施設周りを一緒に頑張っ歩いてます。見かけた時には是非手を振って頂ければ和則さんも励みになるかと思えますので皆さん宜しくお願ひします。

行事予定

六月 十八日 家族交流会

二八日 人権研修会(外部講師) 災害対応訓練

七月 九日 不審者対応訓練

十日 亀川小学校福祉説明会

八月 三日 天草ハイヤ 道中総踊り



編集後記

時代が平成から令和へととなり、気がつけばもうすぐ六月も終わりです！ということは今年も半分が過ぎようとしています。ちょうど一年の折り返し地点ということで六月三十日は「ハーフタイムデー」と呼ばれているそうです。これを機に一度立ち止まって、今年前半を振り返ってみるのもいいかもしれませんね。

これからの時期は、じめじめとした気候で体調も崩しやすくなります。疲労やストレスを溜めず生活リズムを整え、この梅雨を乗り切ってくださいませ。

